



学校だより

平成18年 3月17日(金)
東京都目黒区東山1-24-31
目黒区立東山中学校
第99号

「訊く、聞く、聴く」

学校長 杉 崎 洋一郎

私たちは毎日、多くの人と言葉を交わしながら暮らしています。ですから「きく」と言うことではそうとうなベテランになっていてもおかしくないのですが、人の話をじょうずに「きく」ということは大変難しいものです。

「訊く」とは、たずねる、問いただす、取り調べるという意味です。

「どうして帰りが遅くなったの」「どこへ行っていたの」「誰と一緒にいたの」「テストはあったの」「できはどうだったの」などの矢継ぎ早の舌鋒をかわす方も英知をしぼり、「なんとなく」「べつにーい」「まあね」とかいう答えになり、攻守が明確です。なにせ「訊く」という字は言と刃ですから。

「聞く」とは、音声を耳に感じる、うけたまわるの意味です。

テレビを見ている保護者の背中に「こんどね、学校で個別面談があるんだって」「ふーん」、「いける?」「・・・」「返事を書かなきゃいけないんだけど、書いてくれる」「・・・」「聞いてんの!」「聞いているわよ、うるさいわね」となったりして。「訊く」よりましですが、この繰り返しでは話す気になりません。なにせ、声を耳だけで聞いている聞き方ですから、門構えに耳が付いているゆえんです。

「聴く」とは、耳を傾けて、音声をよく耳の中まで通して聞く、念を入れて聞くの意味です。

「いつもより遅いから、何かあったのかと、とても心配してたのよ」とか、「そう、個人面談があるの、どんなことが話題になるのかしら」のように、耳の中まで通して、ということは心を込めてということになるでしょう。

「聴く」という字には耳もあり心もあります。「こちら心も込めて、そして相手の心の声にまで耳を傾けて聞く」、そういう聞き方なのでしょう。

話し上手よりも、聴き上手でありたいものです。

それって、何？ NO. 88

Q. 学校保健委員会が開かれたそうですが、特に話題になったことはありますか。

A. 3月9日(木)に学校医や学校歯科医、学校薬剤師の先生方に集まっていたいただき、開かれました。参加者は加藤陽一先生(内科)、横川友久先生(耳鼻科)、木村由香子先生(眼科)、川井洋一先生(歯科)、福重克彦先生(学校薬剤師)の5名の先生方と、杉崎校長、齋藤副校長、平野保健主任、松山養護教諭が出席しました。今年健康診断結果等について報告・討議がされました。その中で、生徒の中で目のトラブルが多いことが話題となり、眼科校医の木村先生よりアドバイスを受けました。

○ 「とてもたいせつな目だから・・・定期検査を受けましょう。」

目は私達にとってとても大切なものです。ところが近頃トラブルが増えています。近視でメガネやコンタクトレンズを使用している人も、一度処方してもらったら、なかなか定期検査に行きませんが、視力に合わないメガネがかえって目に負担になっていたり、コンタクトレンズで角膜を傷つけたり、細菌感染を起こしていることもあります。ぜひ、定期的に眼科医で検査を受けて欲しいと思います。

中学生の場合、目だってまだまだ成長の途中。そんな目に、コンタクトレンズを乗せるのはあまり良いとはいえません。木村先生の病院では、中学生には、まずメガネを勧めているそうです。どうしても、コンタクトレンズが必要な中学生には、必ず保護者の方と一緒に来院してもらってから処方されているそうです。すでにコンタクトレンズを使っている人で、少しでも目がおかしいと感じたら、コンタクトレンズの装着をやめて早めに受診しましょう。

(詳しくは、先日本配りした「ほけんだより」をご覧ください)

《4月の行事予定》

日	曜	行 事	給食	16日	日		
1	土			17	月	朝礼 教育会B研 避難訓練	○
2	日			18	火	通学路確認期間(45×4授業) ↑	○
3	月			19	水		○
4	火			20	木	3年連合音楽鑑賞教室	○
5	水	春季休業日終わり		21	金		○
6	木	始業式	×	22	土		
7	金	第51回入学式	×	23	日		
8	土			24	月	朝礼 職員会議 2年内科検診	○
9	日			25	火	心臓検診 検尿(二次)	○
10	月	対面式 安全指導 教科書配布	×	26	水	校内研修会 眼科検診 ↓	○
11	火	身体計測 1年生対象生徒会・部活動説明会 尿検(一次)	○	27	木	専門委員会 3年内科検診 部活動仮入部期間終り	○
12	水	教育会A研	○	28	金	入部手続き〆切	○
13	木	専門委員会 歯科検診 部活動仮入部期間始	○	29	土	みどりの日	
14	金	保護者会1:45~ ↑	○	30	日		
15	土						

・3月4日に行われました、第23回部活動駅伝大会は、素晴らしい天気の中、無事終了することができました。準備をして頂いた部活動保護者会の皆様、地域、関係諸機関の皆様、ありがとうございます。来年度も、ご協力と応援宜しくお願い致します。

・学校評議員、学校給食運営委員、学校医、PTA運営委員、学級の委員、部活動保護者会役員・世話人の方々、1年間本校のためにご尽力頂きまして本当にありがとうございました。

◎ 3月10日（金）に行われたお別れ会での卒業生代表による「卒業の言葉」を紹介いたします。

「卒業生の言葉」

わたしが両手を拡げても お空はちっとも飛べないが
飛べる小鳥はわたしのように地面を早く走れない
わたしが体をゆすっても きれいな音はでないけど
あの鳴るすずはわたしのようにたくさんの歌を知らないよ
すずと小鳥とそれからわたし みんなちがってみんないい
～金子みすゞ 「わたしと小鳥とすずと」

これは「みんなそれぞれ違いがあるけれど、それぞれのよさがある。」という詩で校長先生が入学式の時に私たちに贈ってくださったものです。私たちはこの詩を胸に中学校生活をスタートさせました。

東山中での毎日はとても新鮮でわくわくして新しい発見や出会いの連続でした。私が東山中へ入学して最も強く感じたことは「先生と話をしたり、職員室に入った時に感じる温かさは小学校とはまた違うものでとてもびっくりしました。先生方は私たちととても親しく接してくださり、私は深い安心感を感じることができました。

また運動会や移動教室・文化祭などの行事ではわからないことがとても多く、戸惑うこともありましたが先生や先輩方に教わりながら、楽しく参加できました。またこれらの行事は新しくできた友達との友情を深めることができ、とても思い出深いです。東山中での最初の一年間は新鮮さに溢れ、一人ひとりがいいスタートを切ることができました。

そして二年生。私たちが学校生活に慣れた頃、楽しい日々を送っていましたが、先輩としての自覚を忘れ、目にあまる行動が多くなることもありました。その度に学年集会が開かれたりもしました。そんな時、学年主任の鴨井先生が「人生は信頼関係だ。」と言われました。先生方は、そんな私たちと「信頼関係」を築き上げるため、様々なことをして下さいました。その熱意が届き、二年生も後半になる頃には、少しずつ自覚も芽生え、先生や友達との信頼関係もできてきたように思います。そして一年上の先輩をしっかりと送り出すために、私たちは学年一丸となって卒業式や三送会への歌の練習をしたことを覚えています。

私は、東山中学校の三年間で、学級委員や生徒会活動など様々なことにチャレンジしてきました。そこで感じたことはたくさんありましたが、その中で私がこれから大切にしていきたいことは、「華やかな表舞台の裏側には、たくさんの努力が必要である」ということです。私は、生徒会本部役員になる前、生徒会の仕事は「行事での司会・進行」などのみんなに見える仕事しか知りませんでした。しかし、いざ仕事に関わると、行事ではその何週間も前から企画を練ったりしてとても大変でした。時には頑張っている結果につながらなかつたり、周りの人に伝わらず、とても悔しい思いもしました。ただ楽しかったことやうれしかったこともたくさんありました。頑張った仕事をやり終えた時の達成感、今でも忘れられません。生徒会だけでなく、どんなに小さな裏の仕事でも、それが華やかな表舞台の成功につながります。様々なことにチャレンジしてたくさんの素晴らしいもの

を得たことは、今の私の大きな財産となりました。

僕は吹奏楽部のことについて話したいと思います。僕はサクソを担当しています。僕は中学になってから楽器を始めたので一年生の時は、あまりにも下手でやめてしまおうと思ったこともありました。しかしそんな時、仲間が励ましてくれて僕は続けることができました。そして2年生の夏、都コンクールで銀賞を受賞することができました。この時は、今まで一緒に練習に取り組んでいた仲間と喜びを分かち合うことができました。吹奏楽は技術が上手いだけではだめです。ひとりひとりが努力し、何回も同じ所を合わせるチームワークが最も大切になります、僕は吹奏楽を通してこのことを知りましたが、ここにいる157人の三年生たちはすでにスポーツや勉強を通していかに仲間が大切かということを知っていると思います。色々なことに挑戦する時、僕たちは仲間が必要です。僕の大きな財産となったものは、この山中で共に頑張ってきた素晴らしい仲間だと思います。みなさんも一生の大きな財産となる仲間を作り、大切にしてください。

最上級生である三年生になって、私達は「自覚」「自分たちだけで」「学年全員」・・・などの言葉でよく注意されるようになりました。運動会でも、練習の時はなかなか学年の思いが一つにまとまらず、上手くいかないことが続きました。しかし本番では、クラスに関係なく円陣を組んだり、応援しあったりして、開・閉開式もしっかりした気持ちで臨み、大成功を収めることができました。また文化祭のクラス劇では最初から最後まで自分たちだけの力で、時にはぶつかり合い、お互いに協力し合いながら練習を進めることができました。私のクラスでは本番いくつかの失敗があり、最高のできではなく劇の直後はみんな納得できない気持ちでクラス全体が重い空気になっていました。しかしそんな時、普段はふざけてばかりの男子が「みんなでフォークダンスやりに行こう。」と声をかけ、その言葉で私達のクラスは一つになることができました。この時の感動は今でも覚えています。そして、学年合唱では心からの素晴らしい合唱ができ、涙が出るほどうれしかったです。この時学年の全ての人が本当の「絆」でつながったように思いました。

三年生の皆さん、今までの三年間を思い出してみてください。辛かったこと、怒られたこともたくさんあったけど、改めて私は「この学年が大好きなんだ。」「みんなと友達になれて良かった。」と思いました。みんな同じ気持ちだと思います。私達は三年間かけて学年の本当の「信頼関係」を創り上げてきました。これから卒業までの時間はそれがどれだけのものかが試される時です。だから最後、ひとり一人が「尊敬できる友達」「今までお世話になった先生方、主事さん方に感謝の気持ちを忘れないで、最高の卒業式にしましょう。

在校生の皆さん。私達は、あと少しでこの山中を去ります。山中は伝統のある特色豊かな学校です。盛大な運動会と文化祭を行うことや、帰国生が多く、国際交流が盛んだということ・・・この山中にしかないという素晴らしい伝統がたくさんあります。私達もこの伝統を受け継ぎ、今あなた達に引き継ごうとしています。私達はうまくいかなかったこともたくさんあります。しかし、先輩から精一杯引き継いできたつもりです。これから山中を支えていく生徒の皆さんには、山中の伝統と誇りを受け継ぎ、永遠に守り通してほしいと思います。私達三年生は、山中の生徒が「山中でよかった。」と思えるような学校であり続けることを心から願っています。

平成17年度 第48回卒業生代表